

◆ 平成27年度 全国学力・学習状況調査結果 《中学校・国語科》 ◆

■ 調査結果の概要

A問題(主として「知識」に関する問題)の結果																					
○全体	<ul style="list-style-type: none"> 全国平均正答率に対する佐賀市平均正答率の割合は、0.97で、全国平均正答率を下回っている。(佐賀市73.9)(全国75.8) 																				
○評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> 「話す・聞く能力」については、全国平均正答率に対する佐賀市平均正答率の割合は、0.96で、全国平均正答率を下回っている。(佐賀市76.5)(全国79.7) 「書く能力」については、全国平均正答率に対する佐賀市平均正答率の割合は、0.96で、全国平均正答率を下回っている。(佐賀市70.4)(全国73.6) 「読む能力」については、全国平均正答率に対する佐賀市平均正答率の割合は、0.99で、全国平均正答率を下回っている。(佐賀市85.0)(全国86.1) 「言語についての知識・理解・技能」については、全国平均正答率に対する佐賀市平均正答率の割合は、0.98で、全国平均正答率を下回っている。(佐賀市71.4)(全国72.9) 																				
○内容・領域	<ul style="list-style-type: none"> 「話すこと・聞くこと」については、全国平均正答率に対する佐賀市平均正答率の割合は、0.96で、全国平均正答率を下回っている。(佐賀市76.5)(全国79.7) 「書くこと」については、全国平均正答率に対する佐賀市平均正答率の割合は、0.96で、全国平均正答率を下回っている。(佐賀市70.4)(全国73.6) 「読むこと」については、全国平均正答率に対する佐賀市平均正答率の割合は、0.99で、全国平均正答率を下回っている。(佐賀市85.0)(全国86.1) 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」については、全国平均正答率に対する佐賀市平均正答率の割合は、0.98で、全国平均正答率を下回っている。(佐賀市71.4)(全国72.9) 																				
○グラフ	<table border="1"> <caption>グラフのデータ</caption> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>国語A</td> <td>0.97</td> </tr> <tr> <td>話す・聞く(観点)</td> <td>0.96</td> </tr> <tr> <td>書く(観点)</td> <td>0.96</td> </tr> <tr> <td>読む(観点)</td> <td>0.99</td> </tr> <tr> <td>言語(観点)</td> <td>0.98</td> </tr> <tr> <td>話す・聞く(内容)</td> <td>0.96</td> </tr> <tr> <td>書く(内容)</td> <td>0.96</td> </tr> <tr> <td>読む(内容)</td> <td>0.99</td> </tr> <tr> <td>言語(内容)</td> <td>0.98</td> </tr> </tbody> </table>	項目	割合	国語A	0.97	話す・聞く(観点)	0.96	書く(観点)	0.96	読む(観点)	0.99	言語(観点)	0.98	話す・聞く(内容)	0.96	書く(内容)	0.96	読む(内容)	0.99	言語(内容)	0.98
項目	割合																				
国語A	0.97																				
話す・聞く(観点)	0.96																				
書く(観点)	0.96																				
読む(観点)	0.99																				
言語(観点)	0.98																				
話す・聞く(内容)	0.96																				
書く(内容)	0.96																				
読む(内容)	0.99																				
言語(内容)	0.98																				

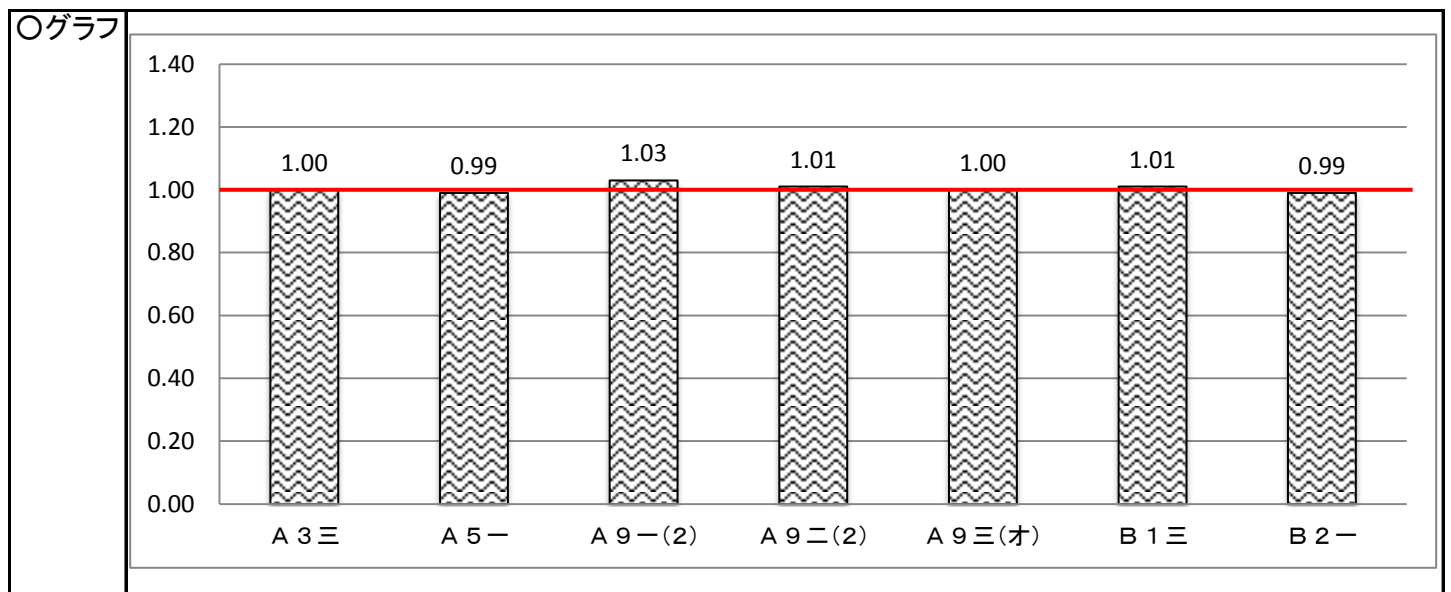
※ 国語科においては、評価の観点と内容・領域が重なる特性上、評価の観点と内容・領域は同じ数値になります。

B問題(主として「活用」に関する問題)の結果																			
○全体	<ul style="list-style-type: none"> 全国平均正答率に対する佐賀市平均正答率の割合は、0.97で、全国平均正答率を下回っている。(佐賀市63.8)(全国65.8) 																		
○評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> 「国語への関心・意欲・態度」については、全国平均正答率に対する佐賀市平均正答率の割合は、0.93で、全国平均正答率を下回っている。(佐賀市34.3)(全国36.7) 「話す・聞く能力」については、全国平均正答率に対する佐賀市平均正答率の割合は、0.99で、全国平均正答率を下回っている。(佐賀市71.5)(全国72.2) 「書く能力」については、全国平均正答率に対する佐賀市平均正答率の割合は、0.93で、全国平均正答率を下回っている。(佐賀市34.3)(全国36.7) 「読む能力」については、全国平均正答率に対する佐賀市平均正答率の割合は、0.96で、全国平均正答率を下回っている。(佐賀市59.9)(全国62.6) 																		
○内容・領域	<ul style="list-style-type: none"> 「話すこと・聞くこと」については、全国平均正答率に対する佐賀市平均正答率の割合は、0.99で、全国平均正答率を下回っている。(佐賀市71.5)(全国72.2) 「書くこと」については、全国平均正答率に対する佐賀市平均正答率の割合は、0.93で、全国平均正答率を下回っている。(佐賀市34.3)(全国36.7) 「読むこと」については、全国平均正答率に対する佐賀市平均正答率の割合は、0.96で、全国平均正答率を下回っている。(佐賀市59.9)(全国62.6) 																		
○グラフ	<table border="1"> <caption>Bar Chart Data</caption> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>Ratio</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>国語B</td> <td>0.97</td> </tr> <tr> <td>関心・意欲(観点)</td> <td>0.93</td> </tr> <tr> <td>話す・聞く(観点)</td> <td>0.99</td> </tr> <tr> <td>書く(観点)</td> <td>0.93</td> </tr> <tr> <td>読む(観点)</td> <td>0.96</td> </tr> <tr> <td>話す・聞く(内容)</td> <td>0.99</td> </tr> <tr> <td>書く(内容)</td> <td>0.93</td> </tr> <tr> <td>読む(内容)</td> <td>0.96</td> </tr> </tbody> </table>	Category	Ratio	国語B	0.97	関心・意欲(観点)	0.93	話す・聞く(観点)	0.99	書く(観点)	0.93	読む(観点)	0.96	話す・聞く(内容)	0.99	書く(内容)	0.93	読む(内容)	0.96
Category	Ratio																		
国語B	0.97																		
関心・意欲(観点)	0.93																		
話す・聞く(観点)	0.99																		
書く(観点)	0.93																		
読む(観点)	0.96																		
話す・聞く(内容)	0.99																		
書く(内容)	0.93																		
読む(内容)	0.96																		

※ 国語科においては、評価の観点と内容・領域が重なる特性上、評価の観点と内容・領域は同じ数値になります。

■調査結果の分析【成果(強み)】

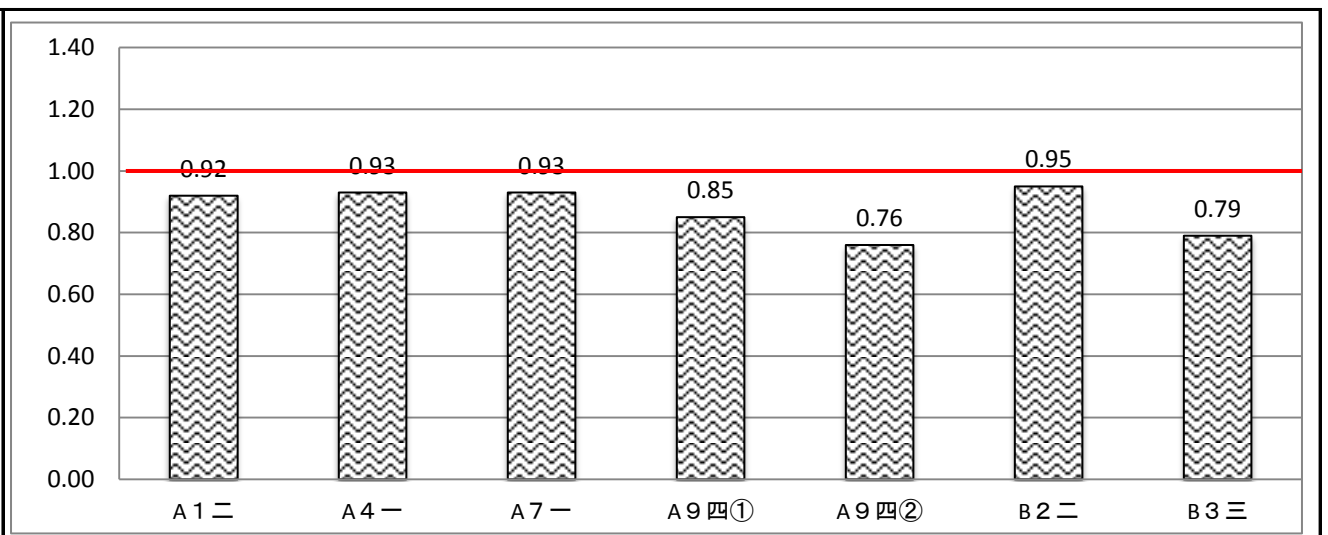
問題番号	領域	観点	出題のねらい	分 析
A 3三	読む	読む	登場人物の言動の意味を考え、内容を理解している	例示や描写や登場人物の言動の意味を考え、内容を理解することはできている。
A 5一	読む	読む	文章から適切な情報を得て、考えをまとめる	図を交えて説明している文章を読み、「問い」に対する答えとなる内容を正確に読み取ることはできている。
A 9一(2)	言語	言語	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う	語句の意味を理解し、漢字を正しく書くことはできている。
A 9二(2)	言語	言語	文脈に即し漢字を正しく読む	語句の意味を理解し、漢字を正しく読むことはできている。同様の問題についても理解できている。
A 9三(オ)	言語	言語	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う	語句の意味を理解し、適切な語句を選択することはできている。
B 1三	書く	書く	資料の提示の仕方を工夫し、その理由を具体的に書く	スピーチのための資料の提示の仕方を工夫し、その理由を具体的に書くことはできている。
B 2一	読む	読む	目的に応じて文章を要約する	ウェブページの文章を理解し、要約することはできている。



■調査結果の分析【課題(弱み)】

問題番号	領域	観点	出題のねらい	分 析
A 1二	話す・聞く	話す・聞く	聞き手を意識し、分かりやすい語句を選択して話す	「成否」の意味を相手に分かりやすい言葉に言い換えることができていない。 指導に当たっては、相手に分かりやすく伝えさせるために、辞書を頻繁に使い、表現や言葉の意味に触れさせる活動が効果的である。
A 4一	書く	書く	伝えたい事実を明確に書く	読み取った情報の内容を明確に書くことができていない。 指導に当たっては、目的や必要に応じて、資料を多面的に読み取る力をつけるために、課題を設定することが有効である。 また、適切な言葉を使い表現することも必要である。
A 7一	読む	読む	伝えたい事柄が明確になるように文章の構成を考える	結論がどこで述べられているかが理解できていない。 指導に当たっては、簡単な文章を使って文章の構成に着目した授業を行い、できるだけ多くの説明文を取り上げ、文の構成を考えさせることが必要である。
A 9四①	言語	言語	単語の類別について理解している	「青い」という形容詞の類別ができていない。用言の類別が難しく感じる生徒も多いので、特に時間をとって基本的な活用について学習し、機会を捉えて、繰り返し品詞について取り上げる必要がある。
A 9四②	言語	言語	単語の類別について理解している	形容詞が、主語として名詞化したことについて理解できていない。この形は特別なものではなく、文章中によく出てくるものなので、その都度、押さえるように意識して指導することが必要である。
B 2二	読む	読む	文章の中心的な部分と付加的な部分などを読み分け、要旨を捉える	雑誌の記事の一部としてあげられたグラフを読み取ることが理解できていない。 指導にあたっては、説明的な文章を読んで、さらに調べたい内容を明確にした上で、様々な資料から必要な情報を的確に得る活動が有効である。
B 3三	書く 読む	関心・意欲・態度 書く 読む	文章の構成や展開を踏まえ、根拠を明確にして自分の考えを書く	「貉」の文章の最後の一文があった方がよいか、ない方がよいかについて根拠を明確にして自分の考えを書くことができておらず、無回答率も高い。 文章の表現の仕方によって読み手が受ける印象の違いがあることを捉え、話の展開を根拠に、自分の立場を明確にして書くことが求められる。そのためには、読む活動において、文章の表現の効果を考えて読んだり、自分の考えを適切にまとめたりする活動が必要である。

○グラフ



■調査結果の分析【指導改善について】

○ 読むことの指導の工夫
意識調査や平均正答率は、全国と比べるとほぼ同じ結果となっている。しかし、読む力がついていないために、分析的に読むことができていなかったり、設問の意図を読み取れず解答できなかったりした問題も少なからずあった。
読む力をつけるためには、説明文や論説文においては「文の構造」の理解や課題を設定し、自分自身で読み取る工夫が大切である。また、小説では、情景や視点、中心人物の言動を通し、内容を理解することと併せて、語彙を増やすためにも頻りに辞書を使い、多くの言葉に触れさせていくことが必要であろう。
読書を通じて、読解力をつけることも期待されるが、そのためには様々な文種に触れさせる活動を仕組んでいく必要がある。

○ 書くことの指導の工夫
意識調査によると「400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことが難しいと思いますか」の設問や、「学校の授業などで自分の考えを他の人に説明したり文章に書いたりすることは難しいと思いますか」の設問に対して、それぞれ7割以上の生徒が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えている。また、書くことの設問については、無解答率が高い。このことから、佐賀市の中学生は文章を書くことに苦手意識をもち、書く活動に際して「何を書いてよいのかわからない」「どのように書いてよいのかわからない」という課題を感じていることが考えられる。
そこで、授業の中で継続的に書く機会を増やすことで、書くことへの抵抗をなくして意欲を高めたり、「あらかじめ提示された課題について書く」「字数を制限して書く」「キーワードを設定して書く」「相手意識をもって書く」など条件つけて書くことで、スキルの向上を図ったりする指導の工夫が求められる。
現在、佐賀市の各中学校では、生徒が各自のスキルに応じてステップを上げていく「ステップ作文」や、相手の文章をリライトして創作し、生徒どうしが交流する「交流作文」などの取り組みを研究し、実践しているところである。意欲をもって生き生きと自分の考えや思いを表現する生徒の育成のためには、様々な視点から書くことの手立てを工夫し、継続的に取り組むことが大切である。

○ クロス集計の分析と指導改善
・「国語の勉強は好きですか」「国語の勉強は大切だと思いますか」という問いに対して、「当てはまる」と答えている国語の学習に関する意識が高い生徒は、正答率が高い傾向にある。生徒が興味・関心のある題材を取り上げたり、学習したことを日常生活で活用させたりすることで、より国語の学習に対する意識を高めることができると考えられる。
・書くことに対する正答率が全国と比べて低かった。「国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている」という問いに対して、合わせて40%近くの生徒が、「どちらかといえば、当てはまらない」「当てはまらない」と答えている。資料を活用して読み取る力や表現する力をつける必要がある。
・佐賀市では「読書が好きである」と回答した生徒の割合が全国に比べ3.4ポイント高い。読書が好きな生徒は、平均正答率が高い傾向にある。今後も、学校や家庭での読書をする時間の確保と積極的な読書指導を行うことが大切である。

■評価の観点については、以下のように表記しています。 ■内容・領域については、以下のように表記しています。

評価の観点	表記
話す・聞く能力	話す・聞く
書く能力	書く
読む能力	読む
言語についての知識・理解・技能	言語

内容・領域	表記
話すこと・聞くこと	話す・聞く
書くこと	書く
読むこと	読む
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	言語